

# KABEKUI

---

Born / Lives and works in Tokyo.

## SOLO EXHIBITIONS

---

2019 "SAI KAI TEN" at SQUASH DAIMYO, Fukuoka

2019 "IN THE PAST DAYS" at OPPA-LA, Kanagawa

2017 "DAI KAI TEN" at Kit gallery, Tokyo

2014 "DAI GYAKU TEN" at BOOYA BOXX, Tokyo

## SELECTED GROUP EXHIBITIONS & WORKS

---

2019 "ART POINT in London" at Espacio Gallery, London

2018 "hsz 16th" Title Art at heavysick ZERO, Tokyo

2018 "858 MUSHITEN" at Senju Yakoya, Tokyo

2018 "FUKUOKA ARTBOOK MARKET" at art space tetra, Fukuoka

2016 "GINZA GL" Group Paint at AURUM Ginza, Tokyo

2016 "Shape Your City" Paint at UltraSuperNew Gallery, Tokyo

2016 "B-BOY PARK" Title Art at Yoyogi Park, Tokyo

2014 "Around the World" at UltraSuperNew Gallery, Tokyo

2014 "EXPRESSION" at ZAKAI HQ, Tokyo

2014 "do it your self" at ZAKAI HQ, Tokyo

2012 "My Daily Necessities" at INVADE 3, Tokyo

2012 "ASSORTMENT 2" at PANGAEA SENDAI, Miyagi



MELTING POT, 2019  
Acrylic on shaped plywood  
W400 x H600 mm

## BIOGRAPHY

---

2008年より活動を開始。

平面と立体の間に生息する2.5次元上の生物として、多様な形態で個体数を増やし続けている。

名前の由来は[壁を喰う蟲]から。

大きな目と4本の手を持ち、本体はどこまでも長く、その終わりを誰も見たことがないという。

日本の漫画やアニメ、サブカルチャーに多大な影響を受け、具象化されたキャラクターイメージは、グラフィティと出会うことでひとつのスタイルへと昇華された。

極端な強弱が付いたアウトラインは、スプレーペイントにおけるラインフローの追求であり、流線を持つダイナミズムをキャラクターの生命の躍動として描写している。

互いに交差し、複雑に絡み合い増殖する様は、自我の膨張と拡大を象徴するようだ。

同時にそれは、矛盾と非論理を含み、高度発達するヒトと社会への問いかけとして描かれ、キャラクターの概念を超えたメタファーとして機能する。

近年はシェイプされた木板を積層させた半立体の作品[POP OUT]シリーズを制作。

意図的に定められたフレームから枠外へと飛び出す群像を構成している。

出自であるグラフィティに基づき、常識に囚われず外世界に踏み出す精神性を表現し、その行動を以って、自己以外の他者との間に存在する[壁]に干渉する試みである。